



2024年9月1日発行 (毎月1日・1回発行) 1988年1月27日第3種郵便物認可 定価50円 発行/公益財団法人横浜YMCA 広報センター 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 Tel 045-662-3721

横浜青年

YMCA NEWS 9

変化する時代の中で地域や社会に必要とされる 愛と奉仕の働きに取り組み続けて140年

横浜YMCAは、2024年10月に創立140周年を迎えます。1884年に横浜海岸教会の青年たちが中心となって誕生し、いつの時代も地域や社会に必要とされる働きを多くの支えとともに展開しています。今号・次号では、これまでの働きを振り返り、これからの取り組みについても考えていきたいと思います。なお140周年記念礼拝ならびに感謝会を行います。詳細は左中段をご覧ください。

横浜YMCAは、2024年10月18日に創立140周年を迎えます。横浜海岸教会の若き会員5人が主唱して「横浜基督教青年会」が誕生しました。初代会長には熊野雄七(横浜海岸教会長老)を選出し、稲垣信牧師が指導に当たり、弁論部などを設け、大規模な講演会を開き、青年の修養を図っていました。

翌年には、中区真砂町で英語研究会が発足し、指導には当時有数の英語学者の高橋五郎があたりました。1887年には第2代会長に稲垣信が就任すると社会的な課題に取り組み、1889年からは廃娯運動を開始しました。以降、大震災や戦争などさまざまな困

難に遭遇しながらも小さく弱くされている人に寄り添い歩み続けてきました。その中心には愛と奉仕の心を持った多くの人がこのため努力がありました。一人ひとりが他者とともに生きることを通して豊かな人生を築き、心豊かな地球社会を創り出していくことを願っています。

2021年4月からは、150周年を迎える2034年に向けて、どのような社会を目指し、持続可能な組織となるための長期計画「VISION2034」を策定し取り組んでいます。2024年4月からは第2期中期3カ年計画として、歩みを進めています。



▲辻堂キャンプ開村式(1924年)が行われてから100年を迎えたキャンプは今夏も多くの子どもたちの笑顔につながった

横浜YMCA 創立140周年記念礼拝・感謝会のご案内

2024年10月18日に創立140周年を迎える横浜YMCAでは、140年の歩みの感謝と祈りの時として、140周年記念礼拝ならびに感謝会を横浜YMCAに連なる多くの方とともに行います。列席を希望される方は、QRコードにてお申込みください。創立140周年の感謝と喜びの時をともに過ごしたいと思います。



【記念礼拝】		【記念感謝会】	
日時	2024年10月5日(土) 午後1時~2時30分 (12時30分受付開始)	日時	2024年10月5日(土) 午後3時30分~5時30分 (3時15分受付開始)
会場	日本キリスト教会横浜海岸教会 (横浜市中区日本大通り8)	会場	英一番館 (横浜市中区山下町3-1 神奈川県立県民ホール6階)
説教	上山 修平牧師 (横浜海岸教会) ※横浜YMCA混声合唱団による賛美があります。	内容	横浜YMCA Port Friendsによるハンドベル演奏・140年を振り返る(映像・歴史を語る) ※会費制となります。

横浜YMCAは2024年10月1日に創立140周年を迎えます。



室内体育館に 連日多くの市民が来場

1916年、多くの人びとの力によって、4階建ての会館が完成し、その会館を拠点に本格的な活動がスタートしました。横浜で最初の室内体育館では、欧米のスポーツが次々と紹介されていきました。バスケットボール、バレーボール、フェンシング、デンマーク体操、パドミントンはこの体育館からはじめて市民に紹介されました。また、YMCAで連日開催されるスポーツや講演会、映画上映会に多くの市民が来場しました。



ボランティアによる 震災支援活動を展開

1923年の関東大震災時には、焼け残った会館に「救護部」の看板を掲げ、全国のYMCAからの協力も得て多くのボランティアによる被災者救援活動が行われました。阪神・淡路大震災(1995年)、中越地震(2004年)、中越沖地震(2007年)、東日本大震災(2011年)、熊本地震(2016年)などにて現地の状況や求められている支援に沿って活動を展開しました。能登半島地震(2024年)では、15避難所へのスタッフ派遣を行うなど活動を続けています。



平和の鐘 富士山YMCAに設置

2007年に開設した富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジには「平和の鐘」が設置されています。この鐘は、横浜YMCA創立125周年記念礼拝にて横浜海岸教会の鐘が125回鳴り響いたことを受け、上海・光州・横浜の三都市YMCA会議の参加者が将来にわたり、子どもたちの心に平和の鐘を鳴り響かせたいと、継続して市民レベルで平和について考えていくことを誓い、2014年10月に富士山YMCAに「平和の鐘」を設置しました。以降、上海、光州YMCAに設置されています。



被災地の子どもたち支援から キャンプ100年

横浜YMCAでは1924年、関東大震災翌年に被災している子どもたちを励ますキャンプを開始しました。以降、子どもたちが豊かな心を育み、仲間との生活を通して調和と自律も学ぶキャンプを実施しています。東日本大震災時には神奈川県に避難している子どもたちを励ますキャンプを実施しました。現在では自然や環境などについて考えるSDGsキャンプも行われています。横浜YMCAのキャンプは100年を迎えました。キャンプを通して今後子どもたちの全人的成長を目指していきます。



ホドス

以前のある新聞の投稿を思い出します。「僕は世界中から核兵器などをなくすべきた」理由は「大きい国が小さい国を武力で従えてしまうのではない心配です」と続き、そして今の人にはあまりなじみのない、インド独立の父ガンジーの教えを引用しているのです。「東京都小学生11歳」と紹介されており、どんなご家庭の子かに関心が湧きました▼そのだいたいが前ですが、ベトナム旅行で小さな戦争博物館を訪ねました。あのベトナム戦争で戦火に追われ、泣きながら必死に逃げる子どもたちと母親の展示写真の前で、アメリカ人の観光客の家族と一緒にになりました▼連れていた小さいお子さんが、誰が攻めているか聞くと「私たちの国の兵隊」と言い「戦争は絶対ダメ」とひざをつき、そのお子さんの小さい肩に手をおいて諭したのです。

▼わが子に自分の国の犯した過ちを隠さず語り聞かせる若い夫婦の言葉と行為に感動しました▼その後、私は8月の礼拝には讃美歌371番の「このこどもたちが」を選んで歌うことが多くなりました。「このこどもたちが未来を信じ、つらい世の中でも希望にみちて、生きるべきいのち 生きていくため、主よ、守りたまえ、平和を、平和を」二番の最後の節「主よ、とどめたまえ、いくさを、いくさを」を願ってです▼歌う時には新聞の11歳の少年の願いが心の底で一緒です。そして特に今も戦禍に苦しむウクライナとパレスチナに早い平和を祈ります。(進)

YMCA NETWORK NEWS

横浜 今夏も広島から 平和を学んだ

8月に、横浜YMCAから2つのグループが広島を訪れ平和について学んだ。

4日から6日に行われた「International Youth Peace Seminar 2024」(主催広島YMCA)には、横浜YMCAから4人のユースが参加し、国内外から集まったユース約40人と語り合った。セミナーでは、8歳の時に被ばくし、2023年5月のG7広島サミットでも被ばく証言を行った小倉桂子さんからの証言をはじめ、平和記念資料館の見学、平和記念式典への参列、灯ろう流し、千羽鶴の献納などを通して平和について考える機会となった。



19日から21日にはアフタースクールの子どもたちが「ひろしまピースキャンプ」を行い、平和の学びに加え、自分たちでできる平和の取り組みをともに考えた。引き続き、平和への取り組みを続けていく。

14 海の国から 9/5 子どもの豊かな心を育み 成長感じられるサマーキャンプ

ウクライナの子どもたちもともに参加 SDGs キャンプや一人暮らし体験も実施



▲カヤックを楽しむ子どもたち(三浦シーサイドアドベンチャー)

今夏は横浜YMCAのキャンプが始まってから100年を迎えた。当初から子どもたちがキャンプを通して豊かな心を育み、いのちを輝かすことを願い取り組んでいる。今年も子どもたちが成長を促すよう取り組んでいる。7月から8月には、富士山YMCAと三浦YMCAの2つのグローバル・エコ・ヴィレッジや海外のキャンプ、全国のYMCAバスケットボール大会などに488人が参加した。このうち、文部科学省「体験活動等を通じた青少年自立支援プログラム」でSDGsの目標達成に向けたアクションプランを策定し、全ての人がだれひとり取り残されることなく社会に参加できる取り組みを考え「助け合い」「互いの考えを尊重し合う」などパートナーシップづくりについての発表があった。

障がいのある青少年を応援 第27回インターナショナル・チャリティーラン



▲スペシャルランに昨年参加した皆さん

障がいのある青少年を応援する「第27回横浜YMCAインターナショナル・チャリティーラン」(主催横浜YMCA・後援神奈川県、横浜市にぎわいスポーツ文化局ほか)の開催が間近に迫り、チャリティーラン実行委員会(久保勝昭実行委員長・ワイスメンズクラブ国際協会東日本区・湘南沖縄部部長)では準備を進めている。

今年大会は、臨港パーク内特設コースを5人1チームで走るリアル大会を10月19日(土)に、チーム個人でエントリーするオンライン大会は10月2日(水)から16日(水)まで、大会に先立ち10月1日(火)には、オンラインにて開会式が行われる。チームならびに個人のエントリーは、オンライン大会9月15日(日)まで、リアル大会27日(金)となる。また、物品協賛、チームスポンサーの協力、当日の大会運営のボランティアを呼びかけている。申し込みは15日までとなっている。

障がいの理解を深め、障がいのある青少年の応援につながるよう多くの参加を呼びかけている。

15 海の国から 9/5



「ジェクト」(教育的効果の高い長期自然体験活動の構築・普及事業)の助成を受け実施した「富士山YMCA SDG S キャンプ」は、8月12日から16日に行われ、小学校5年生から中学3年生13人が酪農体験から命の学びや盲導犬育成センターを訪問し育成の体験を行った。SDGsをテーマにした野外炊事を行い、グループでの活動を通して課題の解決や一人ひとりが意見を出しやすい雰囲気を作ることにも体験した。最終日には各グループでSDGsの目標達成に向けたアクションプランを策定し、全ての人がだれひとり取り残されることなく社会に参加できる取り組みを考え「助け合い」「互いの考えを尊重し合う」などパートナーシップづくりについての発表があった。

また「富士山はじめて」(草原遊び・水遊び・キャンプファイア)、「富士山アドベンチャー」(竜ヶ岳・宝永火口の軽登山)、「富士山ネイチャー」(ニジマスつかみ取り・クラフト・モルツク・マウンテンボード)、「三浦ファンタジー」(シーカヤック・磯遊び)などを行った。

このほか、オルタナティブ事業では「ひとり暮らし体験」などを行い、将来の暮らしに役立つスキルを身につけていく。キャンプを通して協調性や自立・自律の大切さを学び、交流を深め成長につながるキャンプとなった。

10月2日(水)から16日(水)まで、大会に先立ち10月1日(火)には、オンラインにて開会式が行われる。チームならびに個人のエントリーは、オンライン大会9月15日(日)まで、リアル大会27日(金)となる。また、物品協賛、チームスポンサーの協力、当日の大会運営のボランティアを呼びかけている。申し込みは15日までとなっている。

Topics 140years of HISTORY YMCA運動の活発化(1902年～) vol.6

日本における近代化の歩みが1900年以降の産業資本の確立とともにあった時期に、YMCAは全国的・世界的運動へと動き出していきました。1901年7月には、東京・大阪・横浜・神戸の4つの青年会が基督教青年会同盟という連合体を作りました。この時にはすでに学生基督青年会(学生YMCA)同盟が結成されていました。この学生YMCA同盟が最初に全国的なYMCA運動を活発に展開しはじめていました。1902年には法曹界のリーダーで同時に熱心なキリスト者であった渡邊暢氏(横浜地方裁判所所長)が当時神奈川典獄として北海道から赴任してきた有馬四郎助氏の熱心な薦めによってYMCAの会長に選任されました。渡邊会長を中心に横浜YMCAの組織と事業の再建が進められました。この年に私立横浜英語学校の経営が困難となっており、これをYMCAが引き継ぐことを役員会にて諮り、積極的な支持のもと、YMCA付設の英語学校としました。渡邊会長の東京転出の後任として有馬四郎助氏が選任されました。有馬氏は渡邊会長が進めた組織と施設の整備を受け、青年会事業の発展と拡充に力を尽くしました。



▲英語学校の授業により青年への教育事業が始まった。(1910年代)

ポジティブネットをひろげよう
～今月のよくなる一歩～
わたしらしく、
わたしたちらしく。
(Respect 尊敬心)

♪子育てランド♪ 暑い日には感触遊びを

暑い日の遊びといえばプールや海、川遊びなどを思い浮かべますが、今年の夏は気温が高く、外へ出かけるのも心配になりました。保育園では水を使った遊びをしながら暑い夏を過ごしました。「感触遊び」は、色水を凍らせて模造紙に色を付けたり、小麦粉や片栗粉に水を混ぜて、不思議な感触を楽しむことができます。固形石鹸を水に溶かした泡遊びも盛り上がりがあります。泡で遊んだ後は、ハンカチなどを入れて洗濯に発展することもあります。夏はどんな遊びも最後にシャワーを浴びてすっきりできるので、いろいろな遊びをダイナミックに楽しめるのがいいですね。遊んだ後は水分補給も忘れずしましょう。水に濡れていると忘れがちになりますが、大人も子どもも意識的に水分補給を心掛けましょう。感触遊びは、プールのようにたくさん水を準備しなくても楽しめる遊びです。9月も暑い日が続きます。家の中でも楽しみながら元気に過ごしましょう。(YMCA 東かながわ保育園 主任 笹山美和)

横浜 YMCA フェスタ 9月23日に開催

横浜YMCA会員事業委員会では、「横浜YMCAの今を知って、仲間を見つけて、つながり、よくなっていく」をテーマに横浜YMCAフェスタを9月23日(月・休)午前10時から湘南かつかYMCAにて開催する。



昨年のフェスタ

当日は「シンポジウムもつとYMCAs」として専門学校の日本語学科や介護、スポーツなどの指導者を育てる学びについて体験を交えて紹介する。このほか、光州YMCAとのオンライン交流や認知症、運動療育などの学びと体験、SDGsと平和についてのスタンブラリーを行う。4面QRコードからお申込みください。

今夏の新しい出会いと交流生かしの学びの意欲高まった海外プログラム

横浜YMCAでは、7月から8月にハワイ、タイ、台北への海外プログラムを実施した。このうち、7月21日から29日には英語学校ハワイキヤンプ「Hi Power Summer」が行われた。小学生から中学生の参加者は米国ハワイ州オアフ島ノースショアにあるホノルルYMCAのキャンプ場「キャンプアドマン」にてサイ



▲アクティビティ-ガガボールに熱が入る参加者の皆さん

フィンや乗馬などのさまざまなアクティビティや「Traditional Camp」に取り組んだ。参加した小学生は「最初は怖いと感じたアクティビティも励まし合い挑戦できました。さらに英語を学んで世界中の人と交流したい」と感想を語った。8月7日から19日には地球市民育成のための「グローバル・スタディーツアー in タイ」が行われ、人身売買から児童を保護し、就学支

援や職業訓練で自立支援を推進している施設バンクYMCAPAバオセンターを訪問し、子どもたちとの交流や山岳少数民族の村でのホームステイなどを通して人身売買や貧困、気候変動などの社会課題を学んだ。今夏も新しい出会いと仲間とのつながりのあるキャンプとなった。

賛助会企業が留学生に向けて模擬面接を行いポイント指導

横浜YMCA賛助会は、横浜YMCAの青少年育成や平和な社会を創ることを目指す目的と願いに賛同し、その活動を支援する県内企業・団体で構成され、現在49社に横浜YMCAを支えていただいている。昨年度は企業の特徴を生かし子どもたちを対象とした「おかねの教室」や専門学校の留学生を対象とした「就職のための模擬面接」を開催した。



▲本番の面接に役立つ大事なポイントを学ぶことができた模擬面接

今年度も企業の社会的責任(CSR)の実践につながる活動から「エントリーシート」の締め切りも踏まえ就職活動の臨場感が感じられたと思えます。「学生の皆さんが希望の道に進む一助になればと思います」と感想があった。

賛助会では9月6日(金)に、横浜YMCAインターナショナル・チャリティーランのための異業種交流会を開催する。詳細は4面をご参照ください。賛助会についてのお問い合わせは、賛助会事務局 Tel 045-662-3721へ。

第31回AIDS文化フォーラムin横浜 差別や偏見のない世界を目指して

8月2日から4日にかけてわ県民センターにて行われた第31回「AIDS文化フォーラムin横浜」(同委員会主催・事務局横浜YMCA)は、「伝えるむずかしさ」をテーマに、正しい情報を伝える難しさや性教育のあり方、差別や偏見について考える機会となった。開会式では、佐竹博同組織委員会委員長(横浜YMCA総主事)が「多様な価値観を学び、文化の発信・継承者になってほしい」と述べた。

オープニングでは「エイズ・性教育再考」をテーマに4人の医師や活動家が登壇しエイズ・性教育などについて課題を語った。このうち高橋幸子氏(産婦人科医)は、国際セクシュアリティ教育ガイダンスの8つのキーポイントを提示し各世代に合わせた性教育について語り、正しい知識を学ぶことで自身を守ることにつながると語った。



▲シエラレオネの子どもの現状や性教育の事例を学んだ

横浜YMCAでは、同日に「シエラレオネにおける中高

FLASH NEWS

8月に横浜YMCAでは、地域の教会と連携して平和のための合同祈禱会を行った。3日には、藤沢市内キリスト教連絡会主催(事務局 藤沢YMCA)による「2024年度 平和のための合同祈禱会」が日本キリスト教団辻堂教会にて開催された。今年度は「平和について」をテーマとして、河野淳神父(カトリック藤沢教会)からアウシュヴィツ収容所所長一家の暮らしを追う映画を例に、虐げられている他者に心を向ける生き方から平和につながるとメッセージがあった。参加した66人は、平和の実現のために互いに愛をもって共に生きることを改めて誓う時となった。



共に生きる社会を目指し、横浜YMCAでは「多文化共生を考える講座」をシリーズで開催している。9月28日(土)午後1時から午後4時には、フィールドワークとして在日朝鮮人の方々とともに生きる地域や社会づくりの活動に取り組む川崎戸手教会を訪問する。詳細・申し込みはQRコードにてお願いいたします。



ワイス 台湾の学生の学びをサポート コーナー 金沢八景ワイスメンズクラブ

金沢八景ワイスメンズクラブでは、今夏に横浜YMCAが受け入れた台湾の学生のホームステイを受け入れました。これは、ICCPJ(International Camp Counselor Program in Japan)という台湾の学生が夏の1カ月間、キャンプカウンセラーとして日本各地のYMCA キャンプ施設に台中YMCAを通して派遣されるプログラムです。台南市や高雄市の議長や議員の方々とは仕事を通じて都市間交流を行っています。ワイスメンズクラブの活動では、学生を我が家に招き入れて日本食や浴衣の着付けなどにより日本の文化を伝える活動が出来ることをうれしく思っています。国際交流・親善は国民一人ひとりのつながりや信頼関係の積み重ねだと感じる今日この頃です。(金沢八景ワイスメンズクラブ会長 高橋のりみ)

来る10月18日に横浜YMCAは140周年を迎えます。10月5日には、日本キリスト教会横浜海岸教会(当時海岸教会)にて記念礼拝を行い、会員の皆さまと140年続けてこられた感謝の祈りを共にしたいと思っております。その後は、職員も含めた会員の皆さまの交流の機会をささやかながら設けます。詳細は1面をご参照ください。会員だった方やご家族、元職員やそのご家族、若者から高齢の方まで、特に100年以上前のYMCAを支えられた方々につながるのがある方(ご親族ほか)など多くの時代や世代を超えた交流の場として多くの方に越しいただければ幸いです。

横浜YMCA

ひとかき 歴史との対話

総主事 佐竹 博

の歴史上の記録は、関東大震災、横浜大空襲、GHQによる会館接収などにより1945年以前の創立から約60年間の歴史的資料がわずかしか残っていません。今

方々のご家族の方をご存じでしたら、ぜひご紹介ください。横浜YMCAの歩みに新資料が発掘されることを願っています。

横浜YMCA125年史

YMCAsにあるものも、元職員のご家族や会員からご提供いただいたものがほとんどです。皆さまからの歴史的資料のご提供をいつでもお受けしています。過去に横浜YMCAに関わっていた

話をしたいと思います。150年のYMCAについて、現代のYMCAについて、歴史と対話したいのです。

